



## 平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年2月5日

上場会社名 日本証券金融株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 8511 URL http://www.jsf.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小林 英三  
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部長 (氏名) 杉山 慎一 TEL 03-3666-3184  
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月9日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 有  
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	20,828	22.3	3,857	35.0	4,582	36.1	3,775	32.6
29年3月期第3四半期	17,032	5.5	2,856	34.7	3,366	14.3	2,848	19.1

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 6,952百万円 (911.6%) 29年3月期第3四半期 687百万円 (△81.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	39.44	—
29年3月期第3四半期	29.49	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	4,926,880	144,076	2.9
29年3月期	4,645,051	139,712	3.0

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 144,076百万円 29年3月期 139,712百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	8.00	—	10.00	18.00
30年3月期	—	9.00	—		
30年3月期(予想)				17.00	26.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 有

### 3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

当社グループの主たる業務である証券金融業の業績は、株式市況・金利等の動向により大きく影響を受けるため業績予想の開示は行っておりませんが、当社グループの業態に適した開示を行うことを目的に試算値等を掲載することとしております。

なお、業績につきましては、四半期毎に合理的な見積もりが可能となった時点で速やかに開示しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期3Q	100,000,000株	29年3月期	100,000,000株
② 期末自己株式数	30年3月期3Q	5,110,858株	29年3月期	3,821,515株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期3Q	95,718,035株	29年3月期3Q	96,579,984株

（注）期末自己株式数及び期中平均株式数（四半期累計）の算定上控除する自己株式数には、「株式給付信託（BBT）」が保有する当社株式を含めております。

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

「3. 平成30年3月期の連結業績予想」に掲げた理由から、業績予想の記載はしていません。

<試算値等>

(注) 連結業績試算値等の当四半期における修正の有無：有

[連結業績の試算値]

(通期)

	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表試算値 (A)	3,400	4,100	3,300	34.48
今回発表試算値 (B)	3,900	4,800	4,100	42.93
増減額 (B-A)	500	700	800	—
増減率 (%)	14.7	17.1	24.2	—

[個別業績の試算値]

(通期)

	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表試算値 (A)	2,500	3,200	2,700	28.21
今回発表試算値 (B)	3,000	3,700	3,300	34.55
増減額 (B-A)	500	500	600	—
増減率 (%)	20.0	15.6	22.2	—

[試算値の前提とした貸借取引業務に係る残高]

貸借取引平均残高：貸付金 3,400億円 (+300億円)、貸付有価証券 3,700億円 (±0億円)

貸借取引金利等：融資金利 年 0.6%、貸株等代り金金利 年 0%、貸株料 年 0.4%

※ ( ) 内は前回発表試算値における前提残高との比較

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報)	10
(重要な後発事象)	10
3. (参考) 個別財務諸表	11
(1) 四半期貸借対照表	11
(2) 四半期損益計算書	13

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（自平成29年4月1日至平成29年12月31日）の株式市場についてみますと、期初18,983円で始まった日経平均株価は、北朝鮮を巡る地政学リスクの高まりなどから4月14日には当期間の最安値となる18,335円まで下落しましたが、仏大統領選結果を好感して上昇に転じ6月上旬には約1年半ぶりに20,000円の大台を回復しました。その後は、北朝鮮情勢懸念の再燃を受け、9月上旬に19,200円台まで下落したものの、米国による追加利上げ期待などを背景としたドル高・円安推移やこれに伴う企業業績の上振れ期待などから、10月以降は騰勢を強めると、米税制改革法案の成立も好感され12月25日には平成4年1月以来の高値となる22,939円まで上伸し、12月末は22,764円で取引を終えました。

この期間における東京市場の制度信用取引買い残高をみますと、期初の2兆350億円台から漸減基調を辿り、5月上旬には当期間のボトムとなる1兆8,000億円程度まで減少したものの、その後は株価下落局面における個人投資家による押し目買いから増加に転じました。10月下旬以降は株価が上昇基調を辿る中で新規買いが見られ、12月中旬には当期間のピークとなる2兆5,000億円台まで回復し、12月末は2兆4,100億円台となりました。一方、期初に5,800億円台であった同売り残高は、4月中旬に当期間のボトムとなる5,700億円台まで減少したものの、その後は株価上昇局面において新規売りが見られ、10月中旬までは6,000億円台から7,000億円台で推移しました。10月下旬に当期間のピークとなる8,300億円台まで増加した以降は減少に転じ、12月末は6,300億円台となりました。

このような株式市場の動向の下で、当第3四半期連結累計期間における当社グループの貸付金総残高（期中平均）は5,915億円と前年同期比1,435億円の増加となりました。

当第3四半期連結累計期間の連結営業収益は、貸借取引業務における有価証券貸付料が増加となったことなどから、20,828百万円（前年同期比22.3%増）となりました。また、同営業費用は貸借取引業務および有価証券貸付業務における有価証券借入料が増加したことなどから10,907百万円（同33.7%増）となりました。なお、一般管理費はほぼ前年同期並みの6,063百万円（同0.7%増）となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の連結営業利益は3,857百万円（同35.0%増）、同経常利益は4,582百万円（同36.1%増）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,775百万円（同32.6%増）となりました。

次に当第3四半期連結累計期間における各セグメントの営業概況は以下のとおりです。

## ○証券金融業

貸借取引業務では、貸借取引貸付金が期中平均で3,266億円と前年同期比683億円増加したことから、貸付金利息は増収となりました。また、貸借取引貸付有価証券が期中平均で3,843億円と前年同期比1,175億円増加し、貸株料が増収となったことに加え、貸株超過銘柄にかかる品貸料も増加したことから、これらをあわせた有価証券貸付料は増収となりました。この結果、当業務の営業収益は10,702百万円（前年同期比40.7%増）となりました。

一般貸付業務では、個人・一般事業法人向け貸付および金融商品取引業者向け貸付がともに低調に推移し、当業務の貸付金の期中平均は370億円と前年同期比85億円の減少となりました。一方、株式市況の回復に伴い、現金担保付株券等貸借取引の利用は増加しました。この結果、当業務の営業収益は、646百万円（同4.7%減）となりました。

有価証券貸付業務では、一般貸株部門が好調だったほか、債券営業部門において貸付残高の増加等により増収となった結果、当業務の営業収益は3,600百万円（同13.8%増）となりました。

その他の収益は、保有国債の利息収入および売却益が減少した一方で、保有投資信託の分配金等の収入が増加したことなどから、2,784百万円（同2.7%増）となりました。

## ○信託銀行業

信託銀行業務では、貸付金利の低下に伴い貸付金利息が減収となったものの、信託報酬が堅調に増加したほか、保有国債等の売却益が増加したことなどから、当業務の営業収益は2,437百万円（同9.7%増）となりました。

## ○不動産賃貸業

不動産賃貸業務における営業収益は655百万円（同1.1%増）となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期末（平成29年12月31日）の総資産は、有価証券および借入有価証券代り金等が減少した一方で、現金及び預金ならびに営業貸付金等が増加したことから、前連結会計年度末を2,818億円上回る4兆9,268億円となりました。

なお、現金及び預金の太宗は、日証金信託銀行の信託勘定における待機資金および資金繰りの関係で一時的に発生する預金です。

[参考]

当社グループ業務別営業収益の状況

	前年同期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)		前連結会計年度(通期) (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
証券金融業	14,161	83.2	17,734	85.2	19,407	84.1
貸借取引業務	7,606	44.7	10,702	51.4	10,721	46.5
貸借取引貸付金利息	1,242	7.3	1,568	7.5	1,694	7.3
借入有価証券代り金利息	602	3.5	894	4.3	887	3.8
有価証券貸付料	5,528	32.5	7,925	38.0	7,771	33.7
一般貸付業務	677	4.0	646	3.1	907	3.9
有価証券貸付業務	3,164	18.6	3,600	17.3	4,453	19.3
株券	750	4.4	991	4.8	941	4.1
債券	2,413	14.2	2,609	12.5	3,512	15.2
その他	2,712	15.9	2,784	13.4	3,325	14.4
信託銀行業	2,222	13.0	2,437	11.7	2,792	12.1
貸付金利息	114	0.7	70	0.3	147	0.6
信託報酬	489	2.9	552	2.7	668	2.9
その他営業収益	1,618	9.5	1,814	8.7	1,977	8.6
不動産賃貸業	648	3.8	655	3.1	865	3.8
合計	17,032	100.0	20,828	100.0	23,066	100.0

当社グループ貸付金の状況(平均残高)

	前年同期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)		前連結会計年度(通期) (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	
	金額(億円)	構成比(%)	金額(億円)	構成比(%)	金額(億円)	構成比(%)
貸借取引貸付金	2,582	57.6	3,266	55.2	2,654	56.8
一般貸付金	455	10.2	370	6.3	448	9.6
(うち一般信用ファイナンス)	(96)	(2.2)	(90)	(1.5)	(95)	(2.0)
信託銀行貸付金	1,366	30.5	2,267	38.3	1,499	32.1
その他	75	1.7	11	0.2	70	1.5
合計	4,480	100.0	5,915	100.0	4,672	100.0
(参考) 貸借取引貸付有価証券	2,668	—	3,843	—	2,913	—

（3）連結業績予想に関する定性的情報

当社グループの主たる業務である証券金融業の業績は、株式市況・金利等の動向により大きく影響を受けるため業績予想の開示は行っておりませんが、当社グループの業態に適した開示を行うことを目的に試算値等を掲載することとしております。

連結子会社である日証金信託銀行株式会社は前期を若干下回る利益水準を、日本ビルディング株式会社は前期並みの利益水準を予想しております。

持分法適用関連会社である日本電子計算株式会社は前期を上回る利益水準を、ジェイエスフィット株式会社は前期並みの利益水準を予想しております。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,076,761	1,267,456
コールローン	33,000	70,000
有価証券	238,498	128,334
営業貸付金	587,752	861,010
繰延税金資産	278	295
借入有価証券代り金	1,930,722	1,736,637
その他	75,682	70,269
貸倒引当金	△254	△293
流動資産合計	3,942,440	4,133,710
固定資産		
有形固定資産	6,621	6,364
無形固定資産	4,346	4,036
投資その他の資産		
投資有価証券	690,208	781,232
固定化営業債権	1,160	846
その他	1,431	1,535
貸倒引当金	△1,158	△846
投資その他の資産合計	691,642	782,768
固定資産合計	702,610	793,169
資産合計	4,645,051	4,926,880
<b>負債の部</b>		
流動負債		
コールマネー	626,898	1,032,389
短期借入金	13,010	13,010
1年内返済予定の長期借入金	—	1,000
コマーシャル・ペーパー	185,000	173,000
未払法人税等	387	391
賞与引当金	534	329
役員賞与引当金	67	—
貸付有価証券代り金	2,492,578	2,400,048
信託勘定借	1,095,054	1,071,815
その他	63,908	67,170
流動負債合計	4,477,440	4,759,154



（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>固定負債</b>		
長期借入金	4,000	3,000
繰延税金負債	9,410	10,391
再評価に係る繰延税金負債	74	74
役員退職慰労引当金	41	41
役員株式給付引当金	51	44
退職給付に係る負債	2,941	320
資産除去債務	50	50
デリバティブ債務	10,680	9,067
その他	648	658
<b>固定負債合計</b>	<b>27,898</b>	<b>23,649</b>
<b>負債合計</b>	<b>4,505,339</b>	<b>4,782,803</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	11,325	11,325
利益剰余金	106,196	108,138
自己株式	△2,207	△2,961
<b>株主資本合計</b>	<b>125,314</b>	<b>126,502</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	19,736	24,076
繰延ヘッジ損益	△5,083	△6,217
土地再評価差額金	168	168
退職給付に係る調整累計額	△423	△452
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>14,397</b>	<b>17,574</b>
<b>純資産合計</b>	<b>139,712</b>	<b>144,076</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>4,645,051</b>	<b>4,926,880</b>

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
営業収益		
貸付金利息	1,926	2,136
借入有価証券代り金利息	1,008	1,341
有価証券貸付料	8,346	11,150
その他	5,751	6,200
営業収益合計	17,032	20,828
営業費用		
支払利息	861	977
有価証券借入料	6,219	8,481
その他	1,075	1,448
営業費用合計	8,156	10,907
営業総利益	8,875	9,920
一般管理費	6,018	6,063
営業利益	2,856	3,857
営業外収益		
受取利息	172	175
受取配当金	418	410
持分法による投資利益	—	126
償却債権取立益	5	1
その他	56	18
営業外収益合計	653	732
営業外費用		
持分法による投資損失	139	—
自己株式取得費用	3	7
その他	0	0
営業外費用合計	143	7
経常利益	3,366	4,582
特別利益		
投資有価証券売却益	63	5
特別利益合計	63	5
特別損失		
投資有価証券売却損	—	2
ゴルフ会員権売却損	2	—
特別損失合計	2	2
税金等調整前四半期純利益	3,427	4,585
法人税、住民税及び事業税	497	698
法人税等調整額	82	112
法人税等合計	579	810
四半期純利益	2,848	3,775
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,848	3,775

（四半期連結包括利益計算書）  
（第3四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日）
四半期純利益	2,848	3,775
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△4,918	4,425
繰延ヘッジ損益	2,597	△1,134
退職給付に係る調整額	78	△42
持分法適用会社に対する持分相当額	82	△71
その他の包括利益合計	△2,160	3,176
四半期包括利益	687	6,952
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	687	6,952
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成29年5月11日開催の取締役会において、平成29年5月12日から平成30年3月16日にかけて、取得する株式の総数1,500,000株、取得総額1,000百万円を上限に自己株式を取得することを決議し、平成29年5月から平成29年12月にかけて1,300,000株を758百万円で取得しております。この取得などにより、当第3四半期連結累計期間において自己株式が754百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が2,961百万円となっております。

(追加情報)

(取締役等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

当社は、当社取締役（社外取締役を除きます。）及び執行役員（以下あわせて「取締役等」といいます。）の報酬と当社の業績及び株式価値との連動性をより明確にし、中長期的な業績の向上と企業価値の増大への貢献意識を高めることを目的として、業績連動型株式報酬制度「株式給付信託（BBT（＝Board Benefit Trust））」（以下「本制度」といいます。）を導入しております。

## 1 取引の概要

本制度は、当社が拠出する金銭を原資として当社株式が信託を通じて取得され、取締役等に対して、取締役会が定める「役員株式給付規程」に従って、当社株式及び当社株式を時価で換算した金額相当の金銭（以下「当社株式等」といいます。）が信託を通じて給付される業績連動型の株式報酬制度です。

なお、取締役等が当社株式等の給付を受ける時期は、原則として取締役等の退任時とします。

## 2 信託に残存する自社の株式

本制度に関する会計処理については、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第30号 平成27年3月26日）に準じて、総額法を適用しております。これにより、信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く。）で純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度267百万円、640千株、当第3四半期連結会計期間262百万円、627千株であります。

(退職給付信託の設定)

当社は、第2四半期連結会計期間において、退職給付財政の更なる健全化を目的として、退職給付信託を設定し、現金2,665百万円を拠出いたしました。これにより、退職給付に係る負債が同額減少しております。

## (セグメント情報)

## I 前第3四半期連結累計期間（自平成28年4月1日至平成28年12月31日）

## 1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	証券金融業	信託銀行業	不動産賃貸業	合計
営業収益				
外部顧客への営業収益	14,161	2,222	648	17,032
セグメント間の内部営業収益又は振替高	5	5	293	304
計	14,166	2,227	942	17,337
セグメント利益	2,750	397	492	3,640

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,640
セグメント間取引消去	△134
持分法投資損失	△139
その他の調整額	—
四半期連結損益計算書の経常利益	3,366

## II 当第3四半期連結累計期間（自平成29年4月1日至平成29年12月31日）

## 1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	証券金融業	信託銀行業	不動産賃貸業	合計
営業収益				
外部顧客への営業収益	17,734	2,437	655	20,828
セグメント間の内部営業収益又は振替高	2	0	294	297
計	17,737	2,438	950	21,125
セグメント利益	3,778	311	497	4,587

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	4,587
セグメント間取引消去	△132
持分法投資利益	126
その他の調整額	—
四半期連結損益計算書の経常利益	4,582

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 3.（参考）個別財務諸表

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	366,639	840,869
有価証券	64,540	94,988
営業貸付金	411,380	432,005
繰延税金資産	248	233
借入有価証券代り金	1,947,163	1,736,637
その他	68,127	64,087
貸倒引当金	△146	△162
流動資産合計	2,857,954	3,168,660
固定資産		
有形固定資産	2,009	1,842
無形固定資産	4,292	4,008
投資その他の資産		
投資有価証券	525,135	545,766
関係会社株式	26,893	26,893
固定化営業債権	938	846
前払年金費用	—	249
その他	1,683	1,788
貸倒引当金	△938	△846
投資その他の資産合計	553,712	574,698
固定資産合計	560,015	580,549
資産合計	3,417,969	3,749,209
負債の部		
流動負債		
コールマネー	584,598	1,017,389
短期借入金	1,970	1,930
1年内返済予定の長期借入金	—	1,000
コマーシャル・ペーパー	185,000	173,000
未払法人税等	154	302
賞与引当金	481	299
役員賞与引当金	67	—
貸借取引担保金	61,895	64,085
貸付有価証券代り金	2,437,985	2,344,196
その他	1,708	2,948
流動負債合計	3,273,861	3,605,152

（単位：百万円）

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成29年12月31日)
固定負債		
長期借入金	1,000	—
繰延税金負債	6,393	7,294
再評価に係る繰延税金負債	74	74
退職給付引当金	2,332	—
役員退職慰労引当金	41	41
役員株式給付引当金	51	44
その他	3,539	3,308
固定負債合計	13,432	10,762
負債合計	3,287,293	3,615,914
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	11,325	11,325
利益剰余金	95,889	97,254
自己株式	△2,199	△2,953
株主資本合計	115,015	115,626
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	13,345	17,918
繰延ヘッジ損益	2,146	△417
土地再評価差額金	168	168
評価・換算差額等合計	15,660	17,668
純資産合計	130,676	133,295
負債純資産合計	3,417,969	3,749,209

（注）この四半期貸借対照表は、四半期財務諸表等規則に基づいて作成しておりますが、法定開示におけるレビュー対象ではありません。

## （2）四半期損益計算書

（単位：百万円）

	前第3四半期累計期間 （自平成28年4月1日 至平成28年12月31日）	当第3四半期累計期間 （自平成29年4月1日 至平成29年12月31日）
営業収益		
貸付金利息	1,812	2,066
借入有価証券代り金利息	1,011	1,341
受取手数料	256	333
有価証券貸付料	8,304	11,120
その他	2,781	2,876
営業収益合計	14,166	17,737
営業費用		
支払利息	249	308
支払手数料	429	464
有価証券借入料	6,223	8,480
その他	149	222
営業費用合計	7,052	9,475
営業総利益	7,114	8,261
一般管理費	5,066	5,140
営業利益	2,048	3,120
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	651	648
その他	54	16
営業外収益合計	705	665
営業外費用		
自己株式取得費用	3	7
その他	0	0
営業外費用合計	3	7
経常利益	2,750	3,778
特別利益		
投資有価証券売却益	—	5
特別利益合計	—	5
特別損失		
投資有価証券売却損	—	2
ゴルフ会員権売却損	2	—
特別損失合計	2	2
税引前四半期純利益	2,748	3,782
法人税、住民税及び事業税	251	484
法人税等調整額	90	99
法人税等合計	342	583
四半期純利益	2,405	3,198

※ 1株当たり四半期純利益      29年3月期第3四半期 24円90銭      30年3月期第3四半期 33円41銭

（注）この四半期損益計算書は、四半期財務諸表等規則に基づいて作成しておりますが、法定開示におけるレビュー対象ではありません。